

第7回そだつ部会会議録

日 時	2013年1月23日(水)10:00~12:10
場 所	地域連携交流施設
出 席 者	古場美紀、近野悦子、西川さゆり、高津千佳、水野洋子、梶田卓也、安川尚希、浅原奈緒子、政本和子、吉水富美、笹井真貴
テ - マ	1、 本日参加メンバー 2、 活動報告 3、 今年度の振り返りと来年度の取り組みについて 4、 その他のお知らせ 5、 次回開催日
内 容	<p>2.活動報告</p> <p>「かけはし書き方教室」について(12月4日(火)10:00~11:30 実施)</p> <p>アンケート集計結果について(別紙)</p> <p>反省会(第6回そだつ部会会議録参照)の内容と意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」と「交流したい・話をしたい」両方の場が必要</li> <li>・今回は託児希望が、1件あり社協に協力依頼し対応できた</li> <li>・濱口氏の講演について、「わかりやすい」との意見が多く、教育委員会でも、今後も講演を聞く機会を作りたいとの意見が出た</li> <li>・支援者のスキルアップの研修機会はあるが、親がスキルアップする場がない</li> <li>・初回の参加者と複数回の参加者を分けて、開催したほうがいいのか</li> <li>・より一層正しく伝えたり、自分の伝えたい事を、表現(言語化)する事を学ぶ場や勉強会があっても良いのではないか</li> <li>・支援者だけでなく当事者も、学ぶことが必要</li> <li>・今までは「書くこと」のみだったので、今回は「伝え方」「書き方のレベルアップ」を、初級・中級とコース分けしてはどうか</li> <li>・親の思いを伝えるものも、子供が大きくなると必要になる(「親ごころの記録」等)</li> <li>・くらす部会「お泊り会」の際には、「かけはし」が役に立ったと親が感じたり、デイサービス職員も、わかりやすいとの意見があった</li> <li>・相談支援でも有効である</li> <li>・今後、「かけはし書き方教室」普及と維持、質の向上が必要             <ul style="list-style-type: none"> <li>実際の現場の人に、活用し易いか見てもらう</li> <li>現在の参加者に合わせて、先生等の協力を得てはどうか</li> <li>福祉の場での使い方に合わせた項目は、福祉の支援者に聞き、教育の部分は、教育者に聞くようにしてはどうか</li> <li>「かけはし」を、福祉・教育などを繋げるための物であるという意識を持つことが大切</li> </ul> </li> </ul> <p>交流会の、開催について(昨年度は、2月21日に開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が変わる事での相談や、情報提供・書き方教室後の経過を聞く場として開催したい</li> <li>・ある小学校では、春休みに次年度の計画や目標を親に提示する</li> <li>・蓮池小では、夏にかけはしを参考にして、個別支援教育計画を教師と一緒に作成する</li> <li>・同じ町内でも、教育計画作りの時期が違う</li> </ul>

- ・今回の交流会では、当事者が「かけはし」を書いてみての経験談や活用例、受けてきたアドバイス等について発表してはどうか
- ・日時は、水野氏の都合に合わせて決定後、部会参加者に報告する(2月27日か3月1日)
- ・今回も、書き方教室同様に、各学校児童・生徒全員に配布
- ・配布チラシは、協議会と教育委員会で1本化する

### 3. 今年度の振り返りと来年度の取り組みについて

#### 「かけはし書き方教室」について

- ・今年度も書き方教室を2回開催し交流会を1回開催予定である
- ・各回、問題なくスムーズに開催できた
- ・播磨町広報への掲載も行えた
- ・実際にはなかったが、特別に支援のいる親への対応や、託児への対応も関係機関が連携して対応できた
- ・初めての参加の親から、書き方の見本があるとわかりやすいとの意見が聞かれた  
教室開催当初は、見本があるとまねて書いてしまわないかという心配があった  
支援者がどんな情報が欲しいのかという視点で、見本自体の見直しをしてはどうか  
項目に合わせて、チェック項目を作ってはどうか  
書き方の見本を検討するチームを作り、作業してはどうか  
各関係機関の計画や、役場の調査票がそれぞれ「かけはし」のどの項目に対応している  
のかの表を作成してはどうか

#### 放課後支援チームについて

- ・今年度数回の開催の後、参加者が集まりにくく開催できなかった
- ・本人同士が関わる時間を作りたいとの意見もあったが、放課後の時間に児童発達支援事業に通う事も増え、今後行うのであれば、ニーズの確認が必要
- ・放課後と言うより、長期休暇の活動が欲しいという意見もあるが、学童保育や児童発達支援の場があれば利用できるのではないか
- ・特別支援学校には、学童はないのか
- ・何かを作るのではなく、今ある資源の見直し組み合わせで使えないか
- ・交流会で参加者を呼びかけて、チーム活動してはどうか
- ・本人だけでは難しいので、支援者に協力依頼して関わってもらってはどうか

#### 支援者会議について

- ・福祉制度の改正に伴う児童の支援について、数回の講演会を開催し研修してきた
- ・継続していく必要はある
- ・福祉制度の改正の内容が親や当事者に伝わっていないので、啓発の必要がある
- ・啓発活動については、かけはしの周知で教育委員会が取組んだように、福祉においても必要ではないか
- ・支援機関の整理と情報の一般化に加え、支援者間でも、「支援をつなぐ」取り組みを続けなければいけないのではないか

来年度、播磨町内の児童発達支援事業所も、部会に参加を打診してはどうか  
協議会の考えに沿って参加・協力してもらえればいいが、この場では即答できないので  
運営会議等で報告し検討したい

#### 4. その他

全体会のお知らせ：平成 25 年 2 月 21 日（木）10：45～12：00

播磨町役場 BC 会議室

「計画相談支援と地域自立支援協議会の役割」

～本人の望む暮らしを実現するための相談支援を～

関西福祉大学准教授 谷口泰司氏

#### 5. 次回開催日の調整

次回「かけはし交流会」開催後に第 8 回そだつ部会とする

日時：平成 25 年 2 月 27 日か 3 月 1 日のうち、水野氏の予定確認後に決定・連絡とする

交流会の打ち合わせを、2 月 13 日か 2 月 20 日に開催予定